



肉眼彗星となる レナード彗星



天空が広がるうぶやまの高原には、厳しい寒さの北風風が吹き始めました。うぶやまを囲む周りの山々には白い積雪が見られる季節になり、外気温は0℃近くになりますが、今は好天が続き、素晴らしいうぶやまの星空がみられます。

さて、昨年夏のネオワイズ彗星以来の肉眼彗星になるかもしれないレナード彗星（C/2021A1）が地球に近づいています。2021年1月、アメリカの天文学者グレゴリー・レナードが、アリゾナ州のマウントレモン天文台で火星付近を通過中の彗星を発見し、彗星は「C/2021A1(Leonard)」と命名されました。

レナード彗星は、非常に速いスピード(約70km/s)で太陽に近づいており、このため地球から観測すると、天空の彗星の見え方は毎日変化します。12月12日までは未明から明け方の東の低空で見え、その後は夕方の太陽が沈んだ後の西の低空で観察できます。12日23時に3491万kmと地球に最接近しますが、その時は4等級まで増光すると予想されています。現在、彗星はりょうけん座付近にありますが、次第にうしかい座、へび座、ヘルクレス座、へびつかい座へと移っていきます。最接近の12日はうしかい座の1等星アクトウルの近くを通過します。肉眼でも見えると思いますが、双眼鏡があると見つけやすいでしょう。1月3日に太陽に最接近し、また高速で去って行きます。周期彗星ではないので、再び帰ってくることはありません。一期一会を楽しみましょう。順調に増光すれば2021年の終わりころまでは楽しめると思います。

全世界の人々がこの彗星を眺めてコロナ禍です疲れの溜まった皆の心を暖めてくれる機会になってくれればいいなと思います。



